

大学院生・ポスドクを中心とした

## 第9回コンソーシアム人材セミナー in 広島

### 講演①

**「未来予想から考える21世紀のイノベーション像  
ー繊維材料技術・産業の歴史を手掛かりにしてー」**

### 講演②

**「スポーツを通じた異文化交流  
(果てしなき挑戦に向けて)」**

平成27年 **10月21日(水)**

本セミナーは5研究科共同  
セミナーの単位となります

セミナー 14:30~16:40

会場:東広島キャンパス

懇談会 16:50~17:50

生物圏科学研究科 C314 講義室

【講演① 14:35~15:35】

講師: **細川 宏 氏**

(三菱レイヨン株式会社  
研究企画推進、研究指導、CSR担当)

【講演② 15:40~16:40】

講師: **大河内 博 氏**

(スマート・シールド・インターナショナル  
代表取締役)

### 三菱レイヨン株式会社

【所在地】 東京都千代田区丸の内1-1-1  
【資本金】 532億29万円  
【従業員数】 9,451名(連結) [2015年3月末時点]  
【事業内容】 化成品、アクリル系樹脂、AN誘導体、合成  
繊維、炭素繊維・複合材料、中空糸膜、水処理

### スマート・シールド・インターナショナル

【所在地】 ブルネイ  
【資本金】 500,000.00 ブルネイドル  
【事業内容】 コンサルタント  
(アセアン・中東での事業 展開支援)

#### 【申込方法】

1.第9回・2.名前・3.所属・4.学年(職名)・5.懇談会への参加・不参加を明記して、  
下記「申込み・問い合わせ先」まで、Eメールにてご連絡ください。

※ 申込締切: 10月19日(月)

#### \* 申込み・問い合わせ先 \*

広島大学グローバルキャリアデザインセンター(担当 都留・東)

E-mail : wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp

TEL : 082-424-4564

URL : http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateyousei/

## \* 講演①概要 \*

シュンペーターは「経済発展の理論(1911)」の中で、イノベーションとは「それまでのモノ、仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと」と述べた。

人類の文明と共に始まった繊維材料の技術と産業の歴史は今日でも炭素繊維複合材料、中空糸膜、光ファイバーなどに代表されるように現代社会の基礎を支えており、今後も大きな発展が期待されている。シュンペーターの定義を念頭に置き、繊維材料の技術と産業 — 最近ではここ数十年の中空糸膜と水処理技術の発展 — の歴史を手掛かりに21世紀のイノベーション像を議論する中で、イノベーションの担い手となる人材像を考えたい。

## \* 講師プロフィール \*

1980年(4月) 北海道大学大学院理学研究科高分子学専攻 修士課程 修了 理学修士

1980年(4月) 三菱レイヨン(株)入社 中央研究所 配属

2005年(4月) 同 横浜研究所 副所長

2010年(4月) 同 リサーチフェロー 中央技術研究所 副所長 兼 研究企画推進室長

2013年(4月) 同 大竹研究所 主幹研究員

2015年(7月) 定年退職、経営補佐職再雇用 研究企画推進、研究指導、CSR担当

## \* 講演②概要 \*

経産省職員だった大河内氏は、2005年春、日本大使館の二等書記官としてブルネイに赴任。世界一の富裕国とも言われるブルネイと日本との架け橋となろうと意気込んだが、そこに待っていたのはブルネイ独特の閉鎖社会の壁。「よそ者」には心を開かないブルネイの人々との交渉では挫折の連続、それに加えて、大使館の上司からは陰湿ないじめを受け、家族までが被害に遭い、暗い日々が続いた。「こんなことならばブルネイに来なければよかった」と思っていたあるとき、遭遇したのは、ブルネイのセレブが迫力あるバドミントンの試合をしているシーンだった。それをきっかけに大河内氏は、ストレス発散で中学時代に熱中したバドミントンを始めることになる。そんな単純な思いつきから始まったバドミントンだったが、やがて富裕国のやんごとなき方々の懐に飛び込む「コミュニケーションツール」となった。そして、ラケットを携え、武者修行の日々を通じて、「誰も知らないブルネイ」を知ることになるのだった……。

## \* 講師プロフィール \*

日本大学農獣医学部卒。東京農工大学を経て92年経済産業省(当時通産省)に入省。

2005年 米国ヴァンダービルト大学留学を経て外務省へ出向。在ブルネイ日本大使館に赴任

2013年 経済産業省を依願退職し、家族とともにブルネイに移住。

現在はブルネイを中心に日本企業のイスラム圏への進出をサポート。国際機関 東アジア・アセアン経済研究センター ブルネイ担当顧問、日本バドミントン協会国際委員